

平成30年度 三島市議会総務委員会視察報告書

1 視察日程

平成30年7月2日（月）～7月4日（水）

2 視察先及び調査事項

(1) 岐阜県岐阜市

コミュニティバスについて

(2) 兵庫県神戸市

動物愛護事業について

(3) 奈良県橿原市

PFIによる市庁舎建設について

3 視察参加委員

委員長 佐野 淳祥

副委員長 土屋 利絵

委員 松田 吉嗣

委員 鈴木 文子

委員 藤江 康儀

委員 川原 章寛

委員 野村 諒子

委員 弓場 重明

4 報告内容

次のとおり

【視察地ごとの報告】

1 視察先 岐阜県岐阜市

人口 410,472人 面積 203.60km²

市政施行 明治22年7月1日

岐阜市は岐阜県の中南部に位置する中核市で岐阜県の県庁所在地です。

2 調査事項 コミュニティバスについて

(1) 概要

岐阜市では、高齢者等の地域内における日常生活の移動の確保のため市民協働型コミュニティバスを運行しています。住民が運賃、ルートなどをすべて決定し、自らコミュニティバスを導入するシステムで、地域が当事者意識を持ち、効率性・利便性を確保しています。地域の努力により、利用者が増え続ける持続可能なコミュニティバスシステムが構築されています。

路面電車で毎年20億円の赤字、市営バスで5億円、計25億円の毎年の赤字を打破するために、路面電車と市バスを廃止し、その代わりにコミュニティバスを導入した経緯があります。高齢者等の地域内における日常生活の移動を確保するために、市民協働の手作りコミュニティバスが現在19地区において運行されています。地域の住民が話し合い、バスのルートから時間まで住民が主体となって決めていました。おおむね1回の乗車は100円ですが、基準収支率を満たさなければ廃止となる取り決めをしています。

利用者数の伸びとともに、赤字額も増え、毎年2億円に近い赤字が出ていますが、将来を考えると、高齢者の足は必要不可欠なことで、今後22路線まで増設する予定です。

さらに岐阜市型のBRTが導入され、連結バス4台が3路線に導入されています。大学などの学校が多く、バスが大変混雑し、駅前には毎日長蛇の列になっていたようです。そこでこれを導入したところ、利用者が毎日30%増加し、駅前広場の待ち時間が13分短縮したということです。バス優先レーンが確保されているので、到達時間も早く、遅れないのがメリットで、バス停は雨に濡れないようにとか、乗り継ぎが便利に作られ、学生にも好評のようです。

(2) 所感

(野村委員) 地域住民が主体となり、コミュニティバスの採算性、コース等見極めた上で運賃も決定しており地域自治が活かされた運営になっている。人口減少と高齢化という共通の課題がある三島市として住民の生活の質を維持する為に参考にしたい取り組みであった。

(鈴木委員) 自治会長を中心に地域住民が主体となった運営協議会を設置し、行政と交通事業者との連携のもと、計画段階から参画しルートを選定や収支のバランスを考えた運賃設定など、19地域でマイバス意識の運営は参考になった。



【視察地ごとの報告】

1 視察先 兵庫県神戸市

人口 1,540,051人 面積 557.02km²

市政施行：明治22年4月1日

神戸市は兵庫県南部に位置する兵庫県の県庁所在地で日本の市で6番目の人口を有します。

2 調査事項 動物愛護事業について

(1) 概要

神戸市では、条例施行に基づき、平成29年4月に「神戸市人と猫との共生推進協議会」を設立しました。市の協力のもとに、(公社)神戸市獣医師会、(NPO)神戸猫ネット、(公社)日本動物福祉協会、(株)フェリシモ、ネスレ日本(株)、などの団体が、人と猫が共生する社会の実現を図るため、地域猫活動への支援や、野良猫の繁殖制限、譲渡の推進などを話し合い、事業を実施しています。

その結果、地域猫活動に平成29年は99団体が登録され、活動にあたっては、地域猫の腕章を交付し、住民への理解を促進している。野良猫の繁殖制限事業では、野良猫の生息や生活環境被害の状況、地域猫活動の実施状況を勘案し、平成29年に252地域で2051匹を実施した。

譲渡については、ふるさと納税を利用し、大手通販会社(株)フェリシモ(神戸市)と提携のうえ、平成28年度は463件、857.6万円、平成29年度は666件1,374万円の寄付を集めた。返礼品は、猫柄の靴下やイメージキャラクターの「みにゃと」グッズのクリアファイルや限定品のキットカットなど寄付額の約2割で用意している。この収入を仔猫ミルクボランティア184匹、健康管理17匹、不妊去勢手術45匹分に充当している。

これらの取り組みによって、譲渡数は平成27年の91匹から平成29年には237匹に増加、殺処分も平成27年の673匹から平成29年には351匹に減少した。また協議会メンバーであるネスレ日本(株)は「ネコのバス 猫カフェみたいな譲渡会」を譲渡会のために用意された猫を表現した特別バスを運行し、都市部で開催。市民に殺処分の関心を広めている。

市と各関係団体が積極的に協力し合う体制により、ネコ殺処分を減らし、人と共生が図られる強力な取り組みが展開されている。

(2) 所感

(藤江委員) 野良猫対策としての地域猫対策の課題として他人に迷惑をかけずに一代限りの猫を見送り、不幸な野良猫をなくす取り組みを視察した。三島市の地域猫活動の推進に役立ってたい。

(弓場委員) この条例は、議会が市民と共に、野良猫を公費で不妊去勢し、地域に戻して市民との共生を図り、殺処分やトラブルの減少を目的に初制定された。しかし、飼猫が野良猫になる悪循環を断ち切らない限り根絶は無理かと思われる。



【視察地ごとの報告】

1 視察先 奈良県橿原市

人口 122,723人 面積 39.56km²

市制施行：昭和31年2月11日

奈良県のほぼ中央に位置し市の中央部には飛鳥川、西には曽我川が流れています。また、万葉の時代を偲ばせる大和三山（畝傍山、耳成山、香久山）がそびえ、その中央には約1300年前にわが国初の首都であった藤原宮跡があります。後に、日本建国ゆかりの地として「橿原神宮」が建立され、鉄道網が整備されました。

2 調査事項 「PFIによる市庁舎建設について」

(1) 概要

橿原市では、中心市街地の活性化と広域観光の振興を目的に、大和八木駅南側に庁舎と観光施設等からなる複合施設を整備しました。低層部（1階から4階）に総合窓口機能を有する庁舎、高層部（5階から10階）に宿泊施設、最上階（10階）に展望施設を配置しました。

駅前の一等地に3795m²の広大な敷地があり、そこを開発するための話し合いを平成20年より続けてきました。2回断念し、今回、ホテルを含む開発で、宿泊施設を市が建設、保有するのであれば、という条件付きでなんとかホテル業者が決まりました。宿泊施設も観光施設としてPFI事業の対象施設とし、市が建設、保有し、事業者が賃借して独立採算制で運営していくことになりました。

はじめは、計13社と話し合いが個別に行われ、最終的には3つの事業者から提案を受け、大林組に決まります。市が建設し、運営していくことに比べると、26億円近い財政の削減ができ、全体からみると、29.8%の削減になりました。

建物は、庁舎と宿泊施設の合築方式で、1階から4階は庁舎、5階から10階はホテル。駐車場は地下にあり、展望施設として10階を開放していました。庁舎部分には奈良県産の木材を積極的に活用し、温かみのある空間を演出していました。ただ、ホテルを建てるために、ホテル部分に市から15億円の財政支出をしていて、民間ホテルとのバランス、また

客数を圧迫するのではないかという議論が多数されていました。結局、総事業費95億円。ホテルの賃料が、毎月坪当たり2500円で、毎年4000万円、20年にわたり8億円の収入が市にはいつてくるにしても、7億円の赤字が出てしまうことになります。経済波及効果を考えればもとをとれるだろうということで、建設までつながったようです。

(2) 所感

(松田委員) この事業は議会への説明はしたとは言いながらも行政主導で行われ、市民への周知、合意は得ず進め、複合施設のホテルについても将来的には老人介護施設への転用を視野にいれていることには驚いた。

(川原委員) 民間資金の活用による分庁舎・ホテル等の複合施設の整備では、行政がホテルを取得・賃貸することにより事業者を確保し、約30%の財政負担軽減が図られているが、将来的なリスク等、総合的な判断が必要と考える。

